

# 本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年5月1日発行（毎月一回発行）第700号

ISSN 0286-7001

## 出会い・本・人

飛び散る火花 増田祐志

## 本・批評と紹介

富田正樹 著

キリスト教資料集 鬼形恵子

ダンテ 原作/住谷 眞 訳

暗い森を抜けて 佐藤裕子

J.F.ハウズ 著/堤 稔子 訳

近代日本の預言者 村松 晋

W.ウィリモン 著/宇野 元 訳

翼をもつ言葉 小野静雄

会衆主義教会研究会 編、水谷 誠 監修

会衆主義教会の使命 吉岡恵生

芳賀 力 著

神学の小径Ⅲ 芦名定道

大崎節郎 著

大崎節郎著作集 第一巻

教義学論文集1 多田 滉

北村滋郎牧師の処分撤回を求め、開かれた合同教会を  
つくる会 編

戒規か対話か 森野善右衛門

亀谷美代子 著

シリーズ福祉に生きる68

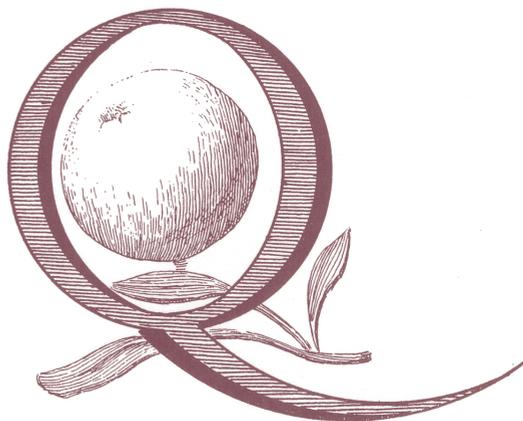
平野 恒 兼子盾夫

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

書店案内

5 MAY  
2016



矛盾を抱える人間を  
どう考えるか



キリスト教は「人間」をどのように捉え、語ってきたのか。時代を画した思想家や聖書物語を紹介しながら、キリスト教人間学の基礎をコンパクトに叙述。

金子晴勇

## キリスト教人間学入門 その歴史・課題・将来

● 四六判・272頁・本体2,000円

好評既刊

M・T・ウィンター／A・ルミス／A・ストークス編

『わたしの居場所はどこ?』——主体的信仰を求める女性たちの声』

● A5判・288頁・本体2,400円



H・キユンク

矢内義顕訳

## キリスト教は 女性をどう見てきたか

原始教会から現代まで

初期教会で活躍した女性使徒や女性預言者はどこに消えたのか? マリア崇敬はいつ始まったのか? 避妊や墮胎、離婚の可否、聖職者の独身制や女性の叙階など、今日的な課題にまで踏み込んだ画期的なキリスト教女性史。

● 四六判・192頁・本体2,100円

好評既刊

ギリシア語

## 新約聖書釈義事典

● A5判・函入三巻セット・本体63,000円  
第I巻544頁／第II巻644頁／第III巻600頁

H・バルツ／G・シユナイダー編  
荒井献／H・J・マルクス監修



説教、聖書研究の準備に!

新約聖書本文に現れる全ギリシア語を完全に網羅。その語の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。刊行以来多くの方に愛用いただいた教職者・神学生必携のロングセラーを、小型化・軽量化。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



## 出会い・本・人 飛び散る火花——増田祐志

わたしが所属しているカトリック教会は、世間で思われているより寛容である。聖職者は独身や位階制の中で長上への従順が義務付けられ、修道者は清貧の誓願をたてるので、厳しい教派と勘違いしている人も多い。独身や従順、清貧の誓願は本人の自由意志であり強要されることはない。むしろ、わたしから見るとプロテスタント系教会のほうが生活上の規律は厳しいように感じる。これはカトリック教会が組織として堅固なので、その枠内であれば自由だということなのであろう。

その「枠内」というのがくせものである。わたしは神学博士号を取得するために、90年代アメリカ・ボストンの大学で学んでいた。博士論文執筆中、指導教授がキリスト論の本を出版した。その指導教授は、東アジアでも暮らし、その他、アフリカ、中南米でも暮らしていたので、世界の教会のことを肌感覚で知っている。それをもとに執筆したキリスト論の著作であったが、これがバチカンの「教理省」という正統信仰保守の組織の審問にひっかかった。当時の教理省長官はラッツインガー枢機卿で、のちの教皇ベネディクト16世である。教理省は、わかりやすく言えば、昔の魔女裁判所である。さすがに現代では火あぶりの処罰はないが。

わたしは、指導教授のキリスト論の著書にとても衝撃を受けた。

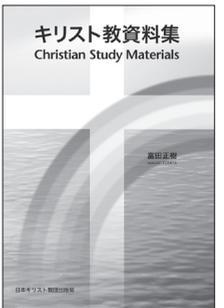
これほどまでに、現代世界と対話ができるキリスト論の著書は初めてだったからである。キリスト教神学の二千年の教理史を踏まえ、かつ現代世界にキリストの意味を信者だけでなく、すべての人に理解可能な著書であるとわたしは思った。しかし、バチカンは「誤謬」（つまり異端思想）があると彼を教職停止処分にした。彼は現在、どのカトリック系教育機関でも教えることはできない。が、バチカンの処分によつて彼の本は逆に売り上げ増になったのである。アメリカの書店で目にしたのは「バチカンから断罪されたキリスト論」という見出しをつけられた棚で平積みにおかれていた彼の著書である。バチカンを本気にさせるのは誰にもできることではない。稚拙な書物はバチカンも無視するだけである。しかし、ある知性と別の知性が激突する時、激越な火花が散る。

本はまさにその激突する知性の場である。わたしはその現場を目の当たりにした。知的良心に従うのか、所属する組織の指導に従うのか。これからも続いていく課題であろう。ただ、火あぶりだけはまっぴらごめんである。

（ますだ・まさし 上智大学神学部教授・イエズス会司祭）

ビジュアル的にも楽しい「読み物のような」資料集  
富田正樹著

## キリスト教資料集



鬼形恵子

本書は『聖書資料集』として二〇〇四年に出版された著者の本を、『キリスト教資料集』としてさらに幅広く、また新しい視点や他宗教への理解なども含めて、まとめられたものです。資料集というものは、一般的には辞書のようなもので知りたい事柄をひろって知識を得るものだと思いますが、この資料集は一ページ、一ページの内容が充実していて、大変興味深く読ませていただきました。一つの事柄や人物を取り上げて、その後にはある物語が伝わってくる新鮮さがあり、「読み物のような資料集」というのが、私がこの本を手にとった時の第一印象です。

キリスト教学校の多くでは、聖書の授業が行われています。他の教科よりも、比較的自由な展開が認められています。各校の聖書科教師は年間授業計画を立て、教材を工夫し、少しでも良い授業ができるように努力していますが、それでも忙しさの中で、何年も同じ教案で授業をしてしまうことがあります。日本ではキリスト教の詳しい知識をもっている人も少ないので、

聖書科の教師は時には独断的になり、古い知識のままで授業を行う危険をもっている、と私自身への反省も込めて思うのです。時々「相手が理解してもしなくても、神の言葉を語れば良い」というような言い方を聞くことがあります。私はそれには疑問を感じます。牧師や聖書科の教師は、聖書を伝えるプロとして、教会や聖書の世界だけで通用する言葉ではなく、キリスト教を知らない人にもわかりやすい言葉で、どの人にも届くような言葉をもつてはいけないと思うからです。

聖書のメッセージは普遍的なものです。聖書は日々発展しているし、私達が生活する現代の社会も大きく変化しています。新しい知識や解釈を謙虚に学び、社会の様々な問題に対する広範な見方や見識を得ることも必要です。またキリスト教だけが絶対ではなく、他宗教への理解やキリスト教に対しても相対的な視点をもつていけることも、中高生たちと日々授業をしていて重要な感覚だと私は感じています。

その意味で、この『キリスト教資料集』は、これまでの資料集の枠を超えて、誰もが手に取って理解できる言葉と客観性を

備えており、またそれでいてキリスト教の根幹となるメッセージをしつかりと伝えていきます。

私にとって富田正樹さんの著書は、いつも「楽しく、おもしろい」という印象があります。そしてその幅広い知識と見識の深さに自分の勉強不足を恥ずかしく思いつつも「やっぱり聖書って面白い、もっと学びたい」と思われるのです。取り上げる題材や視点は、言葉のセンスの良さと共に、他の人にならぬ富田さんだけの大きな魅力です。富田さんの本をキリスト教の専門書店だけでなく一般の書店でもよく見かけるのには、そのような理由があると思います。

本書の単元は、「聖書」「キリスト教」「歴史」「クリスチャン」「文化」「社会」という六つの単元で構成されています。前半の聖書やキリスト教に対する基本的な知識は、地図や写真、絵画がふんだんに用いられ、わかりやすく編集されています。

東日本大震災に対する聖書学からの  
の応答—今いかに聖書を読むか



## 3・11以降の世界と聖書

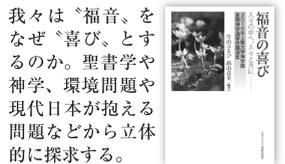
言葉の回復をめぐる

福嶋裕子／大宮謙／左近豊／スコット・ヘイフマン 編著

3・11以降、どう聖書を読むか。聖書学者四人による論考と、震災を経験した三人のキリスト者の証言を収録。両者が響き合い、聖書理解の新しい可能性を示す。A5判・210頁・1836円

## 福音の喜び

人々の中へ、人々と共に  
2015年上智大学神学部夏期神学講習会講演集  
片山はるひ／高山貞美 編著



四六判・290頁・3,024円

## CD版 讃美歌21による 礼拝用オルガン曲集

第2巻 諸式・行事暦・教会・終末  
飯 靖子／志村拓生 演奏

使用ストップと演奏のポイントが分かる音楽CDシリーズ。演奏の参考にはもちろん、個人の鑑賞用にもおすすすめ。35曲収録・1,944円

## 日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 03-3204-0457  
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
<http://bp-uccj.jp>

会協力牧師)

(おにがた・けいこ) 横浜英和学院学院宗教主任、日本基督教団鎌倉恩寵教

汲めども尽きぬ古典の力を伝える

ダンテ原作  
住谷 眞訳

暗い森を抜けて  
神曲ものがたり



佐藤裕子

二〇一五年十一月、新教出版社・つのぶえ文庫から『暗い森を抜けて―神曲ものがたり』が上梓された。副題が示すようにダンテ・アリゲエリの『神曲』を、日本キリスト教会牧師であり、新約聖書学者の住谷眞氏が「小学校五年生以上」の子供向けに翻案したものである。訳者あとがきにもあるように「もとより大人でも読み通すことが難しい大作を、子ども向けにやさしく、また短く散文で書き直す」ことが、いかに困難を伴う作業であるか、想像に難くない。それを格調高く、しかも分かりやすく平明なことばで書き起こしたのが本作である。プロフィールにもあるように「神曲愛好家」にして、日本短歌協会理事で、優れた歌人でもある氏の『神曲』への深い理解と、〈ことは〉に対する真摯な姿勢が、このことを可能にしたといえるだろう。

氏はまず、『神曲』地獄篇（三十四歌）・煉獄篇（三十三歌）・天国篇（三十三歌）合せて百歌を、「地獄への旅」を二十八、「煉獄への旅」を四、「天国への旅」を十の場面に分け、大胆に省略しつつ、しかも「物語全体の筋」を過不足なく示すと

いう力技を行っている。周知のように『神曲』には、一三〇二年に故郷フィレンツェを追放されたダンテが巻き込まれた政争の歴史的背景や、政敵への厳しい批判もふんだんに盛り込まれているのだが、本書は子供にも理解しやすいように、ヴェルジリオ先生と共に歩むダンテが、「道ならぬ恋」、「大食」、「吝嗇」、「浪費」、「自死」など、人類に共通する普遍的罪のゆえに苦しめ悩む人々との出会いと別れを繰り返しながら、地獄から天国へと遍歴の旅を続ける様に焦点が当てられている。訳者あとがきにもあるように『神曲』は、それ以後の「多くの芸術家や文学者に靈感を与えている」。明治日本を代表する小説家・夏目漱石もその一人で、「倫敦塔」と『行人』において、『神曲』を引用している。「倫敦塔」では、塔橋を渡って塔門を潜る際に、「余」が「憂の国に行かんとするものはこの門を潜れ。／永劫の呵責に遭わんとするものはこの門をくぐれ。／迷惑の人と伍せんとするものはこの門をくぐれ。／正義は高き主を動かす。／神威は、最上智は、最初愛は、われを作る。／我が前に物なし只無窮あり我は無窮に忍ぶものなり。／この門を過ぎん

とするものはいっさいの望を捨てよ」という句が「どこぞに刻んではないか」と考える場面である。『神曲』第三歌第一行から第九行までの箇所である。また『行人』では、妻・直と弟・二郎との関係を疑う二郎が「パオロとフランチェスカの恋」を引き合いに出し、「二郎、何故肝心の夫の名を世間が忘れてパオロとフランチェスカを覚えているのか。其訳を知っているか。（中略）人間の作った夫婦という関係よりも、自然が醸した恋愛の方が、実際神聖だから、それで時を経るに従って、狭い社会の作った窮屈な道徳を脱ぎ棄てて、大きな自然の法則を嘆美する声丈が、我々の耳を刺激するように残るのではなからうか。尤もその当時はみんな道徳に加勢する。二人のような関係を不義だと言って咎める。然し（中略）あとへ残るのは何うしても青天と白日、即ちパオロとフランチェスカ」と語る場面である。一郎の苦悩は、最も親しかるべき筈の妻の心・魂をつかみたいという願望に端を発するものであるのだが、それは

つまり一郎が、自らの人生を生きてゆく過程において、共に歩み、共に考え、掛け値なく自分を愛してくれる決定的な存在として「妻（女性）」を捉えているということをも意味する。誰かを好きになることが、同時に他の誰かを苦しめることになるという、恋愛がはらむエゴイズムを漱石は繰り返し描いてゆく。漱石が、『神曲』のエピソードから何を考えたのか、興味深い事例である。ラ・ロシユフコーは、『箴言』の中で人間が直視できないものを「太陽と死」であるとしたが、まさにその「死」と、人間が生きているということに関わる様々な苦しみと喜びとを、子供向けにも関わらず、否、子供向けだからこそ手加減することなく、本書は誠実に解き明かしてくる。大人のための『神曲』ガイドブックとしても最適の書である。

（小B6・一八四頁・本体一三〇〇円＋税・新教出版社）  
（さとう・ゆうこ＝フェリス女学院大学教授）



新刊  
死生学年報  
2016

生と死に寄り添う

東洋英和女学院大学  
死生学研究所編  
●A5判並製 本体2500円＋税

「良き死」の諸相  
津曲真一

●  
継続する絆をつなぐ  
宗教的資源  
谷山洋三

●  
死に抗って―  
死をまぢかに控えた人間はなぜ  
リハビリテーションをするのか  
松岡秀明

●  
ツィリスの天井画にみる生と死  
鈴木桂子

●  
『ギルガメシュ叙事詩』の新文書  
渡辺和子

●  
人間のいのちの尊厳は  
どこにあるか？  
森岡正博

●  
死に向き合うことで生まれるもの  
片岡朝子

●  
『イナンナの冥界下り』を  
シュメール語で  
上演することについて  
高井啓介

●  
他、12篇

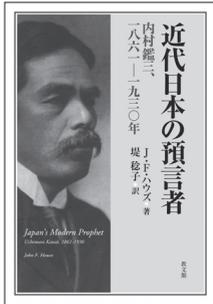
LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

内外に類を見ない浩瀚な「内村伝」  
J・F・ハウズ著  
堤 稔子訳

近代日本の預言者

内村鑑三、一八六一—一九三〇年



村松 晋

『近代日本のバイブル——内村鑑三の「後世への最大遺物」』はどのように読まれてきたか（鈴木範久著、教文館、二〇一一年）には、アメリカの大学で『後世への最大遺物』と出会った日本の学生達の逸話が紹介されている。諸事情から「無用者」との自覚に倦み疲れていた青年らに異国の地で内村を説き、「後世への」眼を啓かせた「J・H教授」こそ、本書の著者J・F・ハウズ氏にほかならない。氏は一九二四年シカゴ郊外に生まれ、かのドナルド・キーン氏と似た経緯で日本語を習得（本書九頁、以下頁数のみ）、コロンビア大学の学生時代は角田柳作——キーン氏が「センセイ」と仰ぎ、あのE・H・ノーマンも師事した存在（ドナルド・キーン『日本との出会い』——を恩師の一人に数える歴史家である（一一頁）。

戦後七〇年を迎えた二〇一五年、初めて邦訳出版された本書は、ハウズ氏の半世紀に及ぶ内村研究の結実である（原著は二〇〇五年刊行）。昨今、内村ないし「無教会」を巡っての意欲的な著作が眼を惹くが、本書の如く浩瀚な「内村伝」は内外に類を見ない。評伝の分野では、小原信『評伝 内村鑑三』（中

央公論社、一九七六年）、同『内村鑑三の生涯——日本のキリスト教の創造』（PHP研究所、一九九七年）、鈴木範久『内村鑑三の人と思想』（岩波書店、二〇一二年）以来の美りとして、今後、内村をひもどく者の座右の書となることは間違いない。

この大著に寄せて、内村研究の泰斗・鈴木氏はこう述べている。いわく「私どもの容易にまねできないと感じた点は、内村を温かく理解しつつ冷静な姿勢の保持である」（同「日本語版に添えて」と。この評言はハウズ氏の、「教師兼著述家としての内村の精神的放浪の旅を研究・紹介する」（二二頁）との闡明に呼応する。氏の筆致は教派とその神学から自由であり、エリックソン「青年ルター」に培われた眼をもつて人間・内村の自問を捉え、その深奥に入りこむ。歴史家らしく各々の言動を、それが紡ぎ出された具体的な「場」において立体的に解き明かさうとする。かくして紙上に屹立するのは「大日本帝国」として造形された「近代日本」と対峙する、一人の「知識人」とその問題圏の軌跡にほかならない。従来様々な視角から、ある「熱度」を帯びて描かれてきた内村の相貌は、本書を貫く「冷静な

姿勢」を光源とすることで、新たな光彩を発揮するであろう。

巻頭でハウズ氏は、亡妻リンほか深津文雄、波多野和夫、中沢治樹、小沢三郎、品川力に感謝を献げている。ここでは如上の献辞が問いかける、本書の持つもう一つの意義にも触れておきたい。深津は上富坂教会牧師で、無教会の中沢治樹共々、日本聖書学研究所最初期の主事を務めたほか、春をひさいで生きざるを得なかった哀しき女性の真の「問題」に、寄り添い続けただ人でもあった（深津『いと小さく貧しき者に』。波多野和夫は、波多野精一の弟にして海軍中将・波多野貞夫を父に持つ日本思想史研究者である。兄同様、貞夫も篤実なキリスト者で、結核の羽仁説子を平塚の自宅で療養させる一面を持っていた。森五郎（後の羽仁五郎。三谷隆正義兄）をはじめ羽仁を巡る人々は、波多野の家に近いものであったろう（『波多野精一全集』六巻、羽仁『妻のこころ』）。かような家庭に育った波多野和夫は、仏教系の愛知学院大で教えつつ、日本プロテスタント

ト史研究会（原著にGarrettとあるが正しくは研究会）に主導的にかかわった（日本プロテスタント史研究会編『日本プロテスタント史の諸問題』。一九五〇年四月より富士見町教会の一室で、毎月第一土曜に開かれた例会には、織田作之助らと交流のあった古書店主にして、『内村鑑三研究文献目録』作者の品川力も出席し（品川『本豪 落第横丁』、研究報告は会長の小沢三郎ほか、家永三郎（日本史）、宮田登（民俗学）らも行うなど、自由で学際的な気風が満ちていた。その意味でこの本は、近代日本のキリスト者達が織り成した、リベラルで清冽な知的コミュニティからの「後世への最大遺物」でもあるのだ。

満洲事変勃発から八十五年の本年、本書タイトルに託されたハウズ氏畢生の志と併せ、その遺産を厳粛に受け止めたい。

（むらまつ・すすむ 聖学院大学人文学部日本文化学科教員）  
（A5判・五六四頁・本体五〇〇円＋税・教文館）



教文館の本

牧師・神学生必携!



ギリシア語 新約聖書釈義事典

H・バルツ／G・シユナイダー編 荒井献／H・J・マルクス監修

新約聖書本文に現れる全ギリシア語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化。

●A5判・函入・三巻セット・本体63,000円  
第I巻544頁／第II巻644頁／第III巻600頁

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 図書目録 ●価格は税抜

バルト再読へ、説教から熱い呼びかけ  
W・ウイリモン著  
宇野 元訳

### 翼をもつ言葉 説教をめぐるバルトとの対話



小野静雄

著者ウイリアム・ウイリモンが、実践神学の分野で日本の諸教会に幅広い影響力をもつ神学者であることは疑いない。翻訳された幾種もの著作は、教派を問わず多くの牧師の書棚の、手に届く近さに納まっているのではないだろうか。

そのウイリモンが、本書に見られるような、実に徹底したバルト読みであることを、評者は、浅学寡聞にして知ることも予想することもなかった。自分は「バルティアン」でない、と断りながらも、ウイリモンのバルトへの傾倒は尋常ではない。ドイツを中心に「バルト後」を模索する種々の神学の潮流が、もはや逆転しがたい奔流となっている。そのような印象を、教義学の素人として四十年あまりいだいてきた。ところがウイリモンの本書は、神学の常識的な流れなど斟酌せず、現代の教会が直面している説教の危機の現場にバルトを置こう、バルトを迎えよう、という不退転の決意を示している。

「神の言葉の神学」は、生ける神の言葉として説教を回復するよう、強い促しを二〇世紀の教会に与えた。神学が教会の営みであるかぎり、神学の全ての学科は「説教の準備」に資する

ものでなければならぬ。それが、週ごとの説教の務めを退いた後も、バルトの神学的思索の根幹をなす確信だったことは、改めて言うまでもない。ウイリモンは、教会が今「キリスト教説教の歴史の岐路」に立っていることを強く意識している（二〇九頁）。他方で、語る務めに当惑し、口ごもる今の時代（「及び腰の時代」）こそ、「説教をおこなう好機」とみるべきだとも言う（三一六頁）。危機を好機に変えねばならない。神の言葉の神学が登場した百年前と、今、世界の多くの教会が置かれている状況には類似点がある、と言えるかもしれない。

『教会教義学』の読解にこめる著者の真摯な熱情、説教学の文脈でのバルトとの対話力は、すばらしいとしか言いようがない。書評者の務めは、もとよりウイリモンの本書を推奨することにあるはず。しかし、ウイリモン自身の願いを代弁して言えば、「たいてい、疲れているように見える」すべての説教者（四一六頁）に、『教会教義学』を読んでもらいたいのだ。バルトの主著の膨大さ（邦訳三六分冊）は、読む意欲を読者から奪ってしまうかもしれない。しかし、ウイリモンは言う。「バ

ルトはたくさん書いた。それは、神がたくさんお語りになるからだ。あるいはこうも——「バルトは自分の言葉をとおして、一つの世界を生みだす仕事に打ち込んでいる。（中略）彼は、ときにくどいほどの反復によってこの言葉の世界を確立する」（二二八頁）。神は無尺蔵に語りかける方である。説教者の声にはるかにまさって、真に主権的に語り続ける方がおられる。ウイリモンが、説教をめぐる深い樂觀主義になお立ち得る理由がそこにある。神が、お語りになるのである。

説教をめぐる幾つかの課題について、ウイリモンはバルトと明確な距離を置く（第一〇章）。アメリカを中心に進められた説教理論とその実践を、みずからも担ってきた神学者として当然のことである。特に、説教にレトリックは不要とみなすバルトの主張には、繰り返し留保をつける。同様に、説教と教会の関係について、バルトが一面的にしか語らない点に批判的である。教会が、歴史のなかで形態と動態をもつことへのバルトの

消極的な姿勢にあき足らないのである。『教会教義学』誕生の土壌は、ほかでもない現実の教会だったではないか？（四〇〇頁）。  
上記のような留保にもかかわらず、バルトへの基本的な信頼には揺らぎがない。「最も頼りになる友」（一七頁）、「いまの時代のための説教者」（四〇九頁）なのである。本書は実践神学者としての著者の、打ち明け話のようであり、大胆に手の内をさらした作品と言えよう。説教言語の危機を、理論と実践の地平で味わい尽くした神学者が、濁流の中でたぐり寄せた救命板。それがウイリモンにとつてのバルト神学だったように思える。深みと軽み、明晰さと美しさ、ウイリモンの思考の流れを映し出す自在な表現。この訳書自身が「翼をもつ言葉」だ。

（おの・しずお〓日本キリスト改革派多治見教会牧師）  
（A5判・四六〇頁・本体五五〇〇円＋税・新教出版社）

厚木・長谷集教会牧師  
齋藤孝志著

## 信仰とは何か？

ヘブライ人への手紙に徹して聴く

信仰とは何か？



「信仰をもつ」とはどういうことなのか？  
預言者・大祭司・王であるキリストの仲保によって得られる新約の恵みを旧約との連続から説くヘブライ書に「徹して聴く」。そのただ中から、苦難にあるうとも信仰によって生きることの意義が克明に描き出されてくる。  
●ヨベル新書 Yobel No. 313 頁・一、〇〇〇円＋税

協・力・編・集

キリスト教雑誌 2016 第3号

# 共助

A5判・定価 500円（税込）

特集

自民党憲法草案と安全保障法制の問題点を学ぶ  
——日本国憲法との比較——

- 講演者 弁護士・植竹和弘  
講演1 自民党憲法改正草案について  
講演2 安全保障法制の問題点  
説教 共助会の使命を求めて 飯島 信

巻頭言：小淵康而、説教：原田博充、【聖書研究】1テサロニケ 七條真明【随想】神に従う者の行く道は平らです 関口美樹  
バックナンバーもごさいます。  
お問合せはヨベルまで。

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

\*自費出版の専門出版社\*資料・星

いま、教会に与えられている使命とは何か  
 会衆主義教会研究会編  
 水谷 誠 監修

## 会衆主義教会の使命 キリストに与えられた務めと希望



吉岡恵生

いま、日本の政治は恐ろしいほどに強権的な様相を呈している。戦後七〇年積み重ね、守り続けてきた平和主義国家のあり方が覆され、戦前回帰するかのような動きが公然と行われているのである。時の政府による恣意的な憲法解釈の変更、すでに始まっている憲法改正の動き、そして言論統制、これらの動きは決してキリスト教の世界と無関係なものではなく、やがては信教の自由さえ脅かしかねない憂えるべき事態である。

そのような時代の中にあつて本書が出版されたことは実に意義深い。なぜなら本書の中心にある「会衆主義」とは、「自由・自治・独立」という精神を掲げる各個教会のダイナミックな生き方であり、その歴史は国家、さらには教会組織上層部などによる干渉や強権的な統制を一切拒んだ一六世紀末のピューリタニに遡るからである。

本書は同信伝道会・会衆主義教会研究会によつて編集され、同常任委員会によつて発行された「会衆主義教会パンフレット第三巻」である。同委員会はすでに二巻のパンフレットを発行しているが、これらは言わば「私家版」として発行され、書店

に出回ることにはなかった。しかしこの第三巻は、キリスト新聞社の協力も得て広く世に出回ることになった。時代がこれを求めたとも言うおうか。いま「会衆主義教会の使命」を学ぶことは、すべての教会、キリスト者にとつて極めて意味深いことなのである。

もしかしたら、本書は会衆主義の伝統にある旧組合教会に連なる人々のための書物であると思う人がいるかもしれない。確かに会衆主義とは、長老派、メソジスト派などと並ぶプロテスタントの一教派として理解される。しかし、本書に述べられているように、会衆主義はすでにイエスの時代に見られる教会の形であり、そこに呼び集められた共同体「エクレスシア」こそ、いかなる国家的権力にも宗教的権力にも屈しない（当時で言えばローマ帝国やユダヤ教指導者に屈しない）、神の会衆だったのである。教会はその歴史の初めから、世の権力からの自由・自治・独立を重んじる会衆主義の精神に生きる群れであった。

その意味で、本書は決して旧組合教会に連なる人々だけの書物ではない。いまの時代だからこそ読まれるべき、すべての教会

キリスト者のための書物なのである。

本書は三部構成となっている。第一部ではラトガース大学の大林浩名教授により、会衆主義教会の歴史と精神が詳しく述べられ、第二部では同志社大学神学部の原誠教授により、合同教会である日本基督教団の歴史と今日的課題、そして会衆主義教会の立ち位置について重要な提言がなされている。また第三部ではバルト神学を研究する一條英俊氏により、バルトやボンヘッファーの神学から会衆主義教会を捉える斬新な切り口で、教会に生きる信徒一人ひとりのあり方について時代を見つめた問いかけがなされている。

興味深いことに、三者は共通して今日の強権的な日本の政治状況に触れながら、教会においてもしばしば同様に、教会組織上層部から各個教会に対して強権的に信仰統制が行われることがあることを指摘している。教会組織が大きくなればなるほど、その組織の運営上、これらをまとめ上げるための指針や信条や

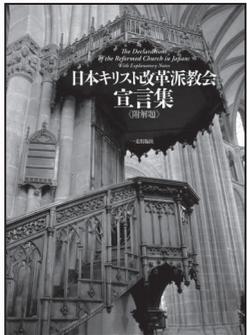
規則が必要になることはあるだろう。しかし一方で、教会が国家のように過度に規則等によつて各個教会のあり方を規制し、教会のあり方すべてを統制していく事態となれば、それはキリストにある自由な、そして本来あるべき生き生きとした宣教の展開を妨げることにもなりかねないのである。イエスが律法主義者たちと論争し、対立したのはなぜなのか。本書を読む中で私たちは改めてその問いの前に立たされ、イエスの生き様が示す信仰の真髄へと導かれていくのである。

（よしおか・やすたか〓シカモア組合教会日語部牧師）  
 （A5判・九六頁・本体五〇〇円＋税・キリスト新聞社）



## 日本キリスト改革派教会 宣言集

《附解題》



### 教会形成と福音宣教の源

「教会と国家」「聖書」「聖霊」「福音の宣教」「予定」「伝道」「終末の希望」、そして「福音に生きる教会」「善き生活」についての信仰の宣言。

A5判・上製  
 定価【本体2,400＋税】円  
 ISBN978-4-86325-092-5



株式会社 一麦出版社  
 札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
 TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
 携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

「創造への問い」を考える貴重な手掛かり  
芳賀 力著

## 神学の小径Ⅲ 創造への問い



芦名定道

教義学を構築するのが困難なこの時代に、創造論をテーマとした本格的な神学書が刊行された。二〇〇八年から五冊のシリーズで刊行されている神学体系構想の待望の三冊目である。三位一体論に基づく神学体系を展開している点で、構想された教義学はオーソドックスではあるが、内容的には旧約新約聖書や古代教父から宗教改革、そして現代の自然科学の知見まできわめて多彩であって、読者は筆者の知的世界の豊かさに接することが出来る。また、各章は「本文、ノート、幕間のインテルメッツォ（間奏曲）、あとがきの命題集」という構成になっており、明晰な論述（本文＋命題集）と掘り下げた論述（ノート）のバランスが取られ、各章の記述・議論に広がりともまとまりを与えている。

本書の構成は、キリスト教的創造論の方法・視点（第一章から第五章）、創造論基礎論（第六章～第九章）、人間論（第十章～第十七章）とおおまかにまとめることができると思われるが、本書は、その内容が多岐にわたらず、そこには、カルヴァンから古改革派神学、そしてバルトへ続く明確な基軸が存在

する。この点で、本書の教義学構想は、改革派的な教義学と呼ばれるべきであろう。こうした基軸が存在して始めて、多様な内容をもつ神学思想は「体系」「組織」として提示できるのである。

以下、本書の豊かな内容から特筆すべきポイントを紹介したい。

キリスト教的創造論は、古代の神話世界（自然崇拜）から人間を解放し、古代から現代まで持続する思想世界（起源の絶対的二元論あるいは反物質主義としてのグノーシス主義↓グノーシス・シンドローム）を論駁することによって自然肯定を可能にしてきた。この点でキリスト教的創造論は近現代の自然科学と対立するものではない。つまり、カルヴァンの聖書解釈論とその「適応」論が示すように、「近代のキリスト教がすべて自然科学を反信仰的なものとして排斥したわけではない」（八七頁）のである。それどころか、「近年特に天文学の分野で、宗教と科学は互いにその知見を交流しつつある」、「無からの創造という聖書の教説に限りなく近い」（八九頁）。もちろん、ド

キンスなど宗教を批判する科学者は存在するが、それが「科学的知見の越権行為」（九九頁）であるという筆者の指摘は、明解かつ的確である。こうした現代科学との関わりは、聖書にもとづく改革派的な神学、つまり「三位一体の神の、外に向かう愛の業」としての創造と、その「創造の内的根拠」として契約という神学的根拠から論じられているのである。

本書後半の中心は、人間をめぐる議論（神学的人間論）であり、特に興味深いのは、「神の像」の議論である。ここにおいても、基本は聖書あるいは改革派的伝統にある。「神の像」は、しばしば人間を動物から区別する理性と考えられてきたが、本書では、こうした実体的見方からではなく、「関係的」動的に理解する立場「から人間が論じられ、「像」は「鏡」「神のあり方を映し返す写像」（二四二頁）と説明される。つまり、「関係としての神の像」としての人間は、「いわば鏡のように、創造主を映し出し、神の栄光をたたえる時に、人間は本来の人

間になる」（二四五頁）のである。「神の像」とは、「終末論的な目標」であり、イマデ・デイの原像であり目標としてのイエス・キリストを通して、「三位一体の神のあり方全体もまた私たちの内に映し出される」（二七九頁）のである。

本書にはほかにも紹介すべき多くの論点が見られる。書評者には以前より「自然神学再考」を試みているが、本書における、エコロジーと神学との関係、創造された共同クリエーター、人間原理などについての議論は、大いに参考すべきものと思われる。科学技術の時代を生きる現代人にとって、本書は「創造への問い」を考える貴重な手掛かりなのである。

（あしな・さだみち〓京都大学大学院教授）  
（A5判・四四〇頁・本体四五〇〇円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

▶神学の基礎知識を網羅



好評発売中!

## 神学の 小径Ⅲ ——創造への問い

創造信仰と自然科学を  
読む! 芳賀力●著  
■A5判・440頁・4,500円



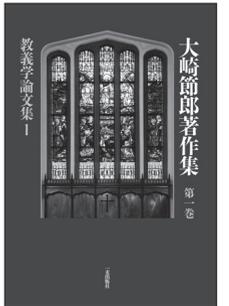
▼チャペルアワーで語られた現代を生きるための奨励集!  
すてたもんじやない

——同志社大学チャペルアワー・メッセージ  
越川弘英●著  
今、キリストの福音を伝える! 現代人に向けて語られたメッセージの数々。  
■四八判・216頁・1,000円

キリスト新聞社  
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1  
TEL 03-5579-2432  
FAX 03-5579-2433 (価格税別)  
E-Mail support@kirishin.com  
URL http://www.kirishin.com

教会の伝統への信頼と確信  
大崎節郎著

大崎節郎著作集 第一巻  
教義学論文集1



多田 滉

近年、『改革派教会信仰告白集』全七巻の編纂に、卓越した指導力と統率力を発揮されて完成に至らせた大崎節郎氏の「大崎節郎著作集」全七巻の刊行が始まりました。本書はその第一巻として、新たに書き下ろされたとあります。使徒信条を講解しながら、教義の諸項目を提示し論じます。著者の教義学的知見の集成とも言える重厚な内容です。これだけでも読み応えのある学びを提供します。しかしまた、今後予定される諸巻を導入するに相応しい一巻とも言えましよう。続行する諸巻を読み進めて神学的思考を深めるための良い準備ともなる、という意味もあると思うからです。

世界の教会を超えて、殆どすべての教会が受け入れ告白している「使徒信条」です。それをめぐる教義学的論述としての本書は、全体として二つの神学的動機に貫かれています。その一つは、聖書と(使徒)信条の関係であり、もうひとつは(使徒)信条と歴史の関係です。そのために、労を厭わず聖書テキストが引証され、本文にも聖書が直接引用されます。しかし、それだけに止まりません。教義学的営為は体系化指向がその本

質である処、聖書本文が多様な語り止まる時、教義学も敢えて体系化を控えます。そうすることで、聖書に規範される規範としての信条の性格が確保されます。この面はこの書の全般に見られる特徴と言つてよいのですが、その典型を例えば「身体よみがえり」の講解の箇所に見ることが出来ます。その時、信条そのものが却つて聖書の限りなく豊かな自由の世界を開く扉として機能することに気づかされます。

信条と歴史の関係では、正に著者のこの領域での教会や教理の歴史をめぐるとは、夙によく知られています。それ故に多くの伝道者、牧会者、神学者を著者の元から輩出し、健全な活動を展開することになっています。この書においても、この方面の知見が存分に発揮されます。信条や信仰告白は、その時代環境との関わり無くしては成り立たないのは当然としても、世界信条の大元に位置する使徒信条が、当時の世界に吹き荒れたグノーシス思潮との対峙から始まって、ローマ・カトリック、東方教会や宗教改革、ルター派、果ては第二バチカン会議に至る、教理の歴史を生き抜いてきた様を、対決や論争をめぐって、

エキユメニカルな視野において、再検討されます。そして的確な批判的継承がなされます。

それは、著者の健康な「伝統」理解と深いところで関係している、と思ふのですが、どうでしょうか。この書全般を貫くのは、教会の生きた伝統への著者の揺るぎない信頼と確信です。宗教改革は、教会生命に溢れる伝統の再発見でもあった、と言われます(熊野義孝全集第五巻)。伝統と改革の内的関係が的確に把握され、習熟されてこそ歴史的な事象に対する批判と継承が果たされる、ということが確認されます。現代の教会が、新しい改革への生みの苦しみの坩堝の中にあることを思えば、それが正しい伝統形成に根付いていなければ、如何に新奇を銜つた変革の試みでも、空しく終わるに違いありません。教会史の土台に位置する使徒信条から生きた伝統を汲み取ることに惜しまない労苦を献げるこの書の著者の静かな情熱が伝わってきます。思い出せば筆者は東京神学大学卒業時に、ある機縁から著者

がその数年前に訳出されたH・ティリーケ著「主の祈り——世界をつつむ祈り」をいただいて任地に赴きました。あれからも半世紀を優に経過したことになります。初任地で毎週の説教作りの苦闘が始まる中、夢中でこの説教集を読んだものでした。ちょうどそのころ同僚ティリーケの『スポルジョンとの出会い』という書物を、説教家としても名をなしていた竹森満佐一師が紹介している文にふれ、C・H・スポルジョンとの出会いも経験し、以来バルト神学の養いや支えを受けながら、同時に併わせて読んできました。

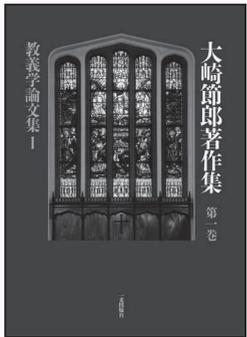
「大崎節郎著作集」が、この国の伝道と教会形成に必ずや大いに裨益することを信じて、先ずは刊行が祝福されて全うされることを切望しています。



大崎節郎著作集

第一巻 教義学論文集1 (全7巻)

大崎節郎  
Setsuro Osaki



透徹した教義学的営為によって  
なされた業績を集大成!

第一巻は渾身の書き下ろし  
「使徒信条講解(教義学要綱)」

その詳細な講解は、教義の根本  
となる重要事項の詳述でもある。

菊判・上製・函入・内容案内進呈  
定価[本体6,000+税]円  
ISBN978-4-86325-082-6



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

教会の命と使命への問い  
北村滋郎牧師の処分撤回を求め、  
開かれた合同教会をつくる会編

## 戒規か対話か

聖餐をめぐる日本基督教団への問いかけ



森野善右衛門

山口雅弘編著『聖餐の豊かさを求めて』、また『聖餐 イエスのいのちを生きる 57人の発言』の出版から8年、「北村滋郎牧師(免職)裁判」の上告棄却を経て再び、日本基督教団(以下、教団)への問いかけとして、本書が刊行された。

北村滋郎牧師(前教団紅葉坂教会)は、洗礼を受けていない者への配餐を行ったために、二〇一〇年、教団から戒規処分を受けて牧師職を免じられた。この処分を不当として、様々な立場の(クローズド聖餐の立場を探る者も含む)40名の信徒・牧師が、事件の問題性を多様な視点から考察し、教団が真に「開かれた合同教会」となることを訴えて本書を世に問うた。

内容は3部に分かれ、第一部「問題の所在」では、北村牧師自身の論考「私の(戒規免職)とは何か」、また「対話の糸口を求めて」と題する関田寛雄・渡辺英俊・岩井健作・禿準一・北村滋郎の5氏による座談会が来る。その中で関田氏(北村支援会代表)の発言が啓発的だ。同氏は、免職問題の背後に「教団内の権力闘争」があると指摘し、「今の教団のあり方はそういう建設的な内部批判を否定して、全く上意下達という、あえ

て言えばカルト宗教に似たような構造を持ち始めている」と批判する。また山北宣久牧師(前教団議長)が教団戦責告白以降の歴史を「荒野の40年」と総括したことを批判し、「決して『不毛の四〇年』ではなく、実に生産的な貴重な経験の四〇年であった。正に戦責告白から始まったこの動きをきちっと位置づけることなくして、教団の未来はない」と述べている。これは今後の対話を進めるための出発点を示している。

第2部の「応答」は、1. 聖餐、2. 戒規免職、3. 対論に分かれているが、そこで心に残った発言をいくつか紹介したい。「私の所属する教会の聖餐式は、洗礼を受けた者だけに限られています。(中略)さて、そのあとで、『主の食卓を囲み』とマラナタを歌うことがあります。(中略)一緒に食卓を囲んでいるにもかかわらず、そこでパンにも葡萄酒にも与れないということか、さもなければ、各自は席にいながらにして、信徒のみ、見えざる食卓についているのか。いずれにしても、そうでない人とともにこの歌を歌うことに、私は率直に違和感を覚えています。(中略)未信者も礼拝に招き、ともに賛美し、とも

にアーメンと祈りを合わせ、献金もさげさせなければ、食事だけはご遠慮いただくのです」(大島有紀子、教団本所緑星教会信徒)

「現在の教団では、会議でも議論はなされず、質問要望は無視されると言ったように、対話が全然成立していない。(中略)教憲・教規で一人の教師を裁くのであれば、教団は教憲で定める会議制を実のあるものにしていただきたい。そして、立場、考えの異なる人とであっても、対話を大切にしていただきたい。対話が欠如していれば、伝道などとてもできないし、時には信徒を躓かせることもある。教団を本当に大切に思うのであれば、対話の復活こそ、そのキーワードではないだろうか」(谷口尚弘、教団紅葉坂教会信徒)。

「北村慈郎牧師免職決定の広報を見たとき私の全身を貫いたものは、「儀文は人を殺し、霊は活かす」というパウロの言葉であった。(中略)現日本キリスト教団議長と執行部は「儀文

## 死者の復活 神学的・科学的論考集

神学と科学が想定する  
終末における復活の実態とは

T・ピーターズ/R・J・ラッセル/M・ヴェルカー編 小河陽記

キリスト教信仰の根幹である「死者の復活」。その実現の可能性と想定される実態を、聖書学、宇宙物理学など、多彩な学問領域の研究者18名が考究。

A5判上製・442頁・6048円

の役者」としか思えないように堂々と、また肅々(現日本政府の権力者たちの愛用する言葉)と北村牧師を免職してしまっただのだ(中略)。執行部は閉ざされた個人的な対話だけでなく、公然と対話の機会と場を設定し、真摯にこれらの質問に世界的な視野をもって答える努力を早急になければならないと思う」(小野一郎、教団隠退教師)。

2月20日(土)には、本書の出版記念対話集会が早稲田奉仕園で開かれ、全国から66名の信徒・教職が出席して、櫻井重宣、大島有紀子、瀬戸英治3氏から発題がなされ、それに続いて活発な討論がなされた。「開かれた合同教会」としての明日の教団の形成のために、本書を手がかりとして、さらに全国的に対話の輪が広げられることが期待される。聖餐論を含めて教会の生命と使命をめぐる議論は今も継続中である。

(もりの・ぜんえもん)日本基督教団関東教区巡回教師  
(A5判・二〇八頁・本体一六〇〇円+税・新教出版社)

## 新約聖書解釈の手引き

浅野淳博/伊東寿泰/須藤伊知郎/辻学/中野実  
廣石望/前川裕/村山由美

聖書を読む方法を初学者向けに概説し、その方法で聖書を読むと「何がわかるか」を紹介する。

A5判上製・338頁・3456円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》  
<http://bp-uccj.jp>

「おさなごにまなぶ」を生涯、実践した「平野恒」  
亀谷美代子著

## 平野 恒

### シリーズ福祉に生きる68



兼子盾夫

児童福祉に生きる恒の姿——『記念樹』の園長のモデル  
児童福祉に生きる平野恒の姿は、昭和四〇年から翌年にかけて日本中に感動を与えたTBSのTVドラマ『記念樹』に描かれた、厳しくしかも優しい園長の姿そのままである。恒から聞く実話を元に木下恵介監督が養護施設の若い保母と子どもたちとの心の交流を一話完結で描き、結婚を機に園を去る保母の家に子どもたちが記念の樹を植える、このドラマはその年の「児童文化賞」を受賞した。

平野家の「キリスト教的愛」と「家庭環境」——恒の生涯を貫く原動力

恒の教えを直接受けた著者・亀谷美代子氏は、児童福祉とその前提となる保育者教育に捧げた師の九八年の歩みを読みやすい筆致で「シリーズ福祉に生きる」の一冊に切り取って見せる。医師で国会議員の父友輔と、日本の最も早い時期の看護師である母藤の第二子として明治に生を受け、平成に没した恒の生涯。理想的な家庭環境に恵まれただけ、それはまた「天職」に伴う

幾多の試練との闘いの連続でもあった。恒はクリスチャンで自由民権家の父からキリスト教の根底にある人間の尊厳と隣人愛を、母からは衛生的な家庭環境と保育に必須の小児栄養の知識を実践的に与えられた。これらはそれに欠ける子どもたちを前にしたとき、大人の義務・子供の権利として、終生、恒を前進させ、問い続けさせた保育の「原動力」である。

「無鉄砲」の実践としての転機——神への「完全なる委託」

著者は手際よく恒の生涯に何本かの柱を立て、生い立ち、矢嶋楯子・二宮ワカとの交流、信仰のネットワーク、人生の転機と社会事業・児童福祉、そして保育・幼児教育のステージへと纏め上げる。恒の生涯の転機は二度ある。一度目は二宮ワカの推薦で基督教婦人矯風会横浜支部婦人ホームの寮長を引き受けたとき。しかしこれは二年を待たず恒を青山学院神学部へと進ませる。それは婦人の更生に根本的な矛盾を感じた故で、負の循環を断ち切るには大人になってからでは遅い、「幼児期の保育こそ人間生涯の人格形成に一番大事だ」との信念に基づく。

そして二度目は敗戦直後、戦災で恒の福祉事業がすべて灰燼に帰したときだ。

思えば恒の人生は、大正一二年の大震災と昭和の太平洋戦争という日本の二度の激動期を生き抜いた波乱の人生である。大震災における平野家の全壊や翌年の父友輔の突然の病臥は、恒個人にとって計り知れない不安、苦痛、困難の因となったであろう。しかし天の父しか畏れる者を持たない気丈な恒をも絶望のどん底に陥れたものは、終戦直後に直面した人間の忘恩、無情さと社会に充満する利己主義で、どんな愛を与えても裏切りで報いる心無い大人の対応であった。

がしかしこの時は皇后様や秩父宮妃殿下という皇室からの励ましで明治人恒を立ち上がらせた。恵まれない母子の福祉、子供の権利のため自分がやってきた仕事を評価して下さる方々が存在する。子供たちのためにもう一度、立ち上がるのだ。そう思うと恒の行動は素早い。戦後の復興期に大活躍し海外視察、ホワイトハウスの会議にも呼ばれる。その成果を還元し各地で

講演する。各種の委員会に委員として加わる。昭和一五年に創った保母学院を再建し、中村（現横浜市南区）に再建された保母学院は、最終的に学校法人格を得て昭和四一年横浜女子短期大学（保育科）となった。

最後に感想を一言。「おさなごにまなぶ」を生涯、貫き通した平野恒の生き方を伝えるこの魅力に満ちた本書には、冒頭のはじまり、巻末の「年譜」他に至る迄、恒の血を引く者、教えを直接受けた者、恒を尊敬する者という恒の周囲のすべての人の協力が伺える。著者は「おわりに」にある通り直接、恒の教えを受け、その後地方行政にも携わり常に児童福祉、保育の最前線を歩み、かつて恒の創立した短大で教鞭をとり、今また白峰保育園の園長を勤める保育者である。

（かねこ たてお 元上智大学キリスト教文化研究所客員所員）  
（四六判・二四頁・本体二〇〇円＋税・大空社）



## キリスト教書総目録 2016年版

バツハとマザー・テレサ 巻頭エッセイ 徳善義和氏 片柳弘史氏

総記・年鑑 辞事典 図説・年表／全集・著作集 叢書・講座／聖書／神学／宗教学 思想・倫理／伝記／ライオン／信仰・入門書 人生論 説教集／文学（小説） 評論／エッセイ 詩 劇 音楽 美術 建築／教育・保育 心理学 社会福祉／児童 絵本／讃美歌 式文／DVD CD カセット ビデオ／キリスト教関連雑誌・新聞 書名索引／著者索引／掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送料250円  
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会  
事務局 〒162-8710 東京都新宿区  
東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

# 本屋さんを選んだ お勧めの本

『よくみてさがそう』

聖書絵本

クリスマス』

日本聖書協会著



1,200円+税  
日本聖書協会

静岡聖文舎

増田直秀

よくあるクリスマスの絵本のようにですが、絵本の中に登場するキャラクターを探す遊びだけの絵本ではなく、各ページにその場面の聖書のお話がしっかりと載っています。

こどもに読み聞かせをする親御さんに、クリスマスにはケーキを食べてプレゼント交換をするお祭りではなく、救い主イエス・キリストの誕生を祝うキリスト教のお祝いだと認識していただけたらと思います。

# 『メディアに むしばまれる 子どもたち』

田澤雄作著



1,300円+税  
教文館

著者は著名な小児科医。「世界一孤独で自信が持てない日本の中高生」、「おとなになれる子ども」の大きな要因が、テレビ・ゲーム機・スマホなどの映像メディア漬けにあることを指摘しています。しかし、ただ現代社会に警告を発しているのではなく、医師として治療が可能であることを示します。昨年、教文館から出版されましたが、どこに増刷されました。子どもだけではなく、スマホを手放せない私たちおとなも考え直さなければ！

静岡聖文舎

〒420-0866 静岡市葵区西深草町20-26

TEL: 054-2600-6644

FAX: 054-2600-5612

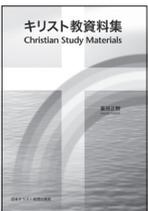
Email: info@seibun.co.jp

アバコ・ブックセンター

加藤久絵

# 『キリスト教資料集』

富田正樹著



1,000円+税  
日本キリスト教団出版局

キリスト教の教えを教育理念に据えた中学校、高校、大学などで、聖書理解を助ける教科書として用いられているこの一冊。聖書の構成や主な登場人物についてはもちろんのこと、教会暦やシンボルなど教会生活の中で触れる物事についても、カラフルに分類され、図解を交えてわかりやすく解説されています。加えて、聖書の時代を超えて近代へとつながっている歴史の中でのキリスト者の活動や言葉、文化や芸術などもコンパクトに掲載されています。63頁という気軽に手に取り易い厚さの中にスマートにまとめられ、懐に優しい金額なのも魅力のひとつです。

「見えないものを信じる」ことを思いつつ、ついつい見ないで過ごす人になってしまいがちな今日この頃、フレッシュな気持ちで、死海やガリラヤ湖周辺の断面図や伝道の足跡地図などの資料ページを開きつつ、聖書に思いをはせれば、より鮮やかな神さまの思いを発見できるかも。緑の木々や花々が鮮やかに色づくこの季節におすすめたし

ます。

そして、ここからは余談になりますが、本誌23頁に記載されているキリスト教書店から、キリスト教書籍やグッズ以外にも、一般的に「書店」という名前からは連想できないような聖餐用ぶどう液や死海湖塩の塩飴なども手に入ることをご存知ですか。ときに、お近くのキリスト教書店のひとつを声を楽しまれるのも乙ですよ。農林水産関係では「地産地消」という「顔が見え、話ができる」関係を大切にされるあたたかい響きのことばを耳にします。全国のキリスト教書店を、ご活用ください。キリスト教書店は、文書伝道の枝葉としてひとつとなって香しい実を結ぶことを願い、今日もみなさまをお待ちしております。

アバコ・ブックセンター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

TEL: 03-3203-4121

FAX: 03-3203-4186

URL: http://www.avaco.info

E-mail: avaco@avaco.info

■新教出版社

信じるという感覚（仮題）

岡野昌雄著

福音書に記されたイエスの不条理な振る舞いはなぜ？ 素朴な疑問に答えながら、聖書や教会や信仰の本質が分かるようになる。初心者に気軽に勧められるキリスト教への超入門書。

B6判・180頁・予価1000円

■キリスト新聞社

聖書を伝える極意

説教はこうして語られる

平野克己監修

日本基督教団、ホーリネス、聖公会、カトリック、ルーテル、改革派、単立教会……教派を越え、情熱と愛に満ちた一三人の説教者たちのインタビューを収録！

四六判・200頁・本体1800円

中心を見定めて生きる

柳澤嗣世牧師説教集

柳澤嗣世著

日本バプテスト深川教会での柳澤嗣世牧師による説教集。死が間近に迫った中で、読者に大きな力を与える生き生きとした信仰の言葉！

四六判・330頁・本体2000円

## INFORMATION

### 近刊情報

現代文化とキリスト教

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編

現代文化におけるキリスト教的表現、ポップ、サブ・カルチャーにおけるキリスト教理解を分析し、現代社会におけるキリスト教の受容と変容について明らかにする。

四六判・208頁・本体1800円

■日本キリスト教団出版局

ルワンダ 闇から光へ

命を支える小さな働き

竹内緑著

看護師への道を歩み出した若い日にキリスト教の信仰を得て、「いかに生きるべきか」と問い続けた著者は、やがてアフリカに派遣された。間もなくルワンダで虐殺が勃発。以来20年あまり、現地の人々の苦難に寄り添い、和解を求めて働いてきた日々を綴る感動のエッセイ。

四六判・104頁・本体1200円

説教への道

牧師と信徒のための説教学

加藤常昭著

神学校、そして説教塾で説教を共に学んできた著者が、神の言葉に仕える人々に指し示す説教に至る道のり。神の言葉として聴かれる説教の原点を確認し、与えられた聖書テキストに向き合い説教に至るまで、その歩みの同伴者として、実際に丁寧な解き明かす。

四六判・178頁・本体1600円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	<a href="http://www.jp-shop.com">http://www.jp-shop.com</a>	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	<a href="http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/">http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/</a>	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲2-2 様カリスセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	<a href="http://www.kyobunkwan.co.jp">http://www.kyobunkwan.co.jp</a>	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	<a href="http://www.avaco.info">http://www.avaco.info</a>	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	<a href="http://taisindo-books.jimbo.com/">http://taisindo-books.jimbo.com/</a>	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisutokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	<a href="http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs:ds/uev.html">http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs:ds/uev.html</a>	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	<a href="http://homepages3.nifty.com/seibunsta/">http://homepages3.nifty.com/seibunsta/</a>	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	<a href="http://osakacbs.web.fc2.com/">http://osakacbs.web.fc2.com/</a>	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	<a href="http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/">http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/</a>	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	<a href="http://kcbook.net/">http://kcbook.net/</a>	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	903-0207	中壠郡西原町字豊777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	<a href="http://www.okinawacbs.com/">http://www.okinawacbs.com/</a>	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2016年5月号

**特集 聖書とお金**  
寄稿者 長谷川修一、佐竹明、山口里子、東方  
敬信、梅津順一、南野浩則

**好評連載** 聖書とわたし(吉原毅)、聖書素読(金  
必順)、レヴィナスの時間論(内田樹)、新約釈義・  
第三モテ書(辻学)、消しゴム点描(望月麻生)、  
南島キリスト教史入門(二色哲)、現代日本の  
福音(高橋裕子)、詩篇の思想と信仰(月本昭  
男)、ことばの履歴書(佐藤優) ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148  
Email: sales@shinkyopb.com

## 編集室から

カール・バルト『私にみ言葉をください』(新教出版社)を最近入手しました。面白いです。

邦訳の初版は一九七四年(私の生まれた年!)ですから、すでによく知られた本だと思うのですが、改めて紹介しますと、本書はバルトの『教会教義学』の最終巻『総索引』に収録されていた「説教の手引き」の翻訳です。本書の編者ヘルムート・クラウゼは、ドイツ福音主義教会が使用している聖書日課に従って、膨大な『教会教義学』から約八〇〇か所を抜粋し、これを主日ごとに配置しました。

つまりこの日課で説教する説教者にとっては、説教すべき箇所について『教会教義学』が何を言っているかが概観できるといって、説教準備に便利な本です。この日課に馴染みがない私のような者にとっても、やはりとても有益です。

本稿を書いているのは受難節なのですが、私はゲツセマネの祈りを学ぶ必要がありました。そこで本書をひもときますと、聖木曜日テキストに選ばれていました。

選ばれたバルトの言葉はこう始まります。「イエスは、福音書の物語の一部で、人間に対して行なわれる審きの神的主体として、示されているが、この神的主体は、少なくともゲツセマネの場面以後は、自らこの審きの客体となり給う」。

なるほど! そう考えると、福音書全体における、この場面の特別な重要さが浮かび上がってきますね。主体から客体への「逆転」という神の計画の受け容れ難さ。主イエスが死ぬばかりに悲しんだのは、そのゆえだったと知らされます。

福音の鳥瞰図を示した上で、ズームアップして当該箇所に向かっていくという感じ。その大きな視野が、注解書とはまた違って、面白いです。邦訳『和解論』の該当ページも示されていたので、続きを読むねば。

(土肥)

## 本のひろば 2016年6月号 予告

本・批評と紹介…沢 知恵著『私のこすべるくろにくる』、N・T・ライト著『新約聖書と神の民 上巻』、柳父圀近著『日本のプロテスタンティズムの政治思想』、北村慈郎著『食材としての説教』、W・ブルッゲマン著『現代聖書注解 サムエル記上/下』、鈴木文治著『インクルーシブ神学への道』 ほか

# 教会と戦争

川端純四郎著

教会の戦争責任からオルガニストの責務まで

3年前に惜しまれつつ逝去した著者の、残された論文・講演録などから、今必読の28編を精選。



戦時下、牧師館の少年だった著者が見た父の姿、特高が監視する礼拝、長じて留学の途次に出会ったアジアの貧しい子どもたち、ドイツで師事したブルトマン、中国人の友、そして帰国後に学び始めたマルクス……。宗教学者、実践家、教育者、そして教会に仕え続けた篤実な信徒。その多面的で広範な活動の根底にあった思想と信仰。

4月18日

◆四六判・本体2500円

# 使徒行伝 下巻

〔現代新約注解全書〕

荒井献著 ついに上・中・下巻、完結

下巻は18章23節から最後まで。なお巻末には補論として「最後のパウロ——使徒行伝28章30―31節に寄せて」および緒論となる「概説使徒行伝」を収める。 ◆A5判・本体9000円

既刊 使徒行伝 上巻 ◆本体6000円 中巻 ◆本体9000円

著者による完結記念講演会  
「受けるよりは与えるほうが  
幸いである」(使20:35)再考  
6月11日(土) 13時半～  
教文館9階、会費500円  
主催=教文館・要申し込み

# パウロ小書簡の神学

〔叢書新約聖書神学9〕

K・P・ドンフリード、I・ハワード・マーシャル著／山内二郎、辻学訳

第一、第二テサロニケ、フィリピ、フィレモンを扱う。書簡の歴史的状況と構造を概観し、パウロが伝えようとした使信の内実を探り、さらにその使信が今日いかなる意味を持つかという「適用」にも及ぶ。

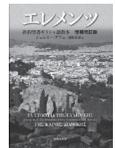
4月15日

◆四六判・本体4000円

定番のギリシャ語入門がパワーアップ!

# エレメンツ 増補改訂版

新約聖書ギリシャ語教本 J・ダフ著／浅野淳博訳 ◆A5判・本体4000円



ジョナサン・エドワーズ選集 1 人は善を選べるのか?

# 自由意志論

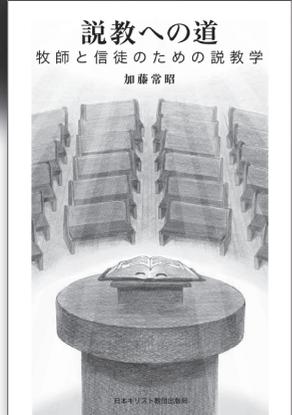
柴田ひさ子訳／森本あんり監修

啓蒙思潮批判と人格の擁護 ◆A5判・本体7000円

本の心は 第七〇〇号 二〇〇六年五月号

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇〇六年五月一日発行（毎月一回一日発行）

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457  
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp (価格8%税込)



60年の経験のすべてが注ぎ込まれた  
説教者への実際的な道案内

# 説教への道

## 牧師と信徒のための説教学

### 加藤常昭

神の言葉として聴かれる説教の原点を確認し、与えられた聖書テキストに向き合い説教に至るまで、その歩みの同伴者として、実際的に丁寧に解き明かす。牧師も信徒も、この1冊で説教ができるように書かれた具体的な手引き。

◆四六判 並製・178頁・1,728円

#### 目次

序章	初めの第一歩	第4章	説教の言葉を求めて・講解説教の歩み
第1章	説教の原点	第5章	説教の言葉を求めて・主題説教の歩み
第2章	説教を学ぶ道	第6章	説教批評
第3章	どのような説教を目指しますか	第7章	説教への道モデル

『信徒の友』連載を単行本化—アフリカで医療活動に従事した体験を綴る

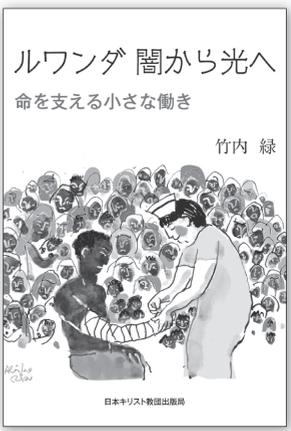
# ルワンダ 闇から光へ



## 命を支える小さな働き 竹内 緑

キリスト者で看護師の著者がアフリカに派遣されて間もなく、ルワンダで虐殺が勃発。現地の人々の苦難に寄り添い、和解を求めて働いてきた日々を綴るエッセイ。その過酷な日々を支えたのは、神の働きに加えられる喜びであった。

◆四六判 並製・104頁・1,296円



発行所 〒169-0814 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三三二六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇五一一六七九  
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社  
日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三二六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(〒62円)  
一年分一三〇〇円(送料共)